

令和7年度  
県政モニターアンケート調査結果

---

テーマ：県立高校に期待することについて

福岡県教育庁  
教育振興部高校教育課・教育総務部総務企画課

## ■ 調査の目的

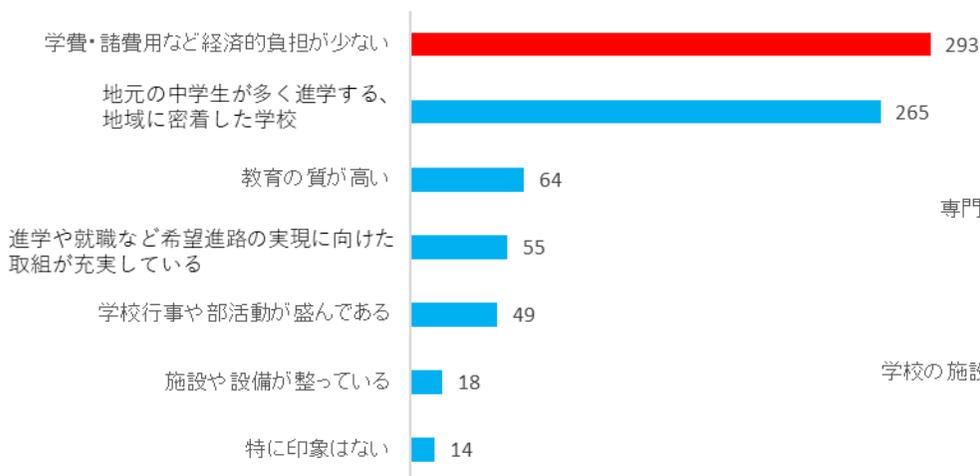
人口減少や生徒の進路選択の多様化、国における高校無償化の動きなど、県立高校を取り巻く環境は大きく変化しており、質の高い教育と地域を支える人材育成を強化し、魅力化・特色化を図っていくことが、県立高校の喫緊の課題となっております。

皆さんの御意見をお聴かせいただき、課題を整理した上で、今後の県立高校の活性化方策の参考とさせていただきます。

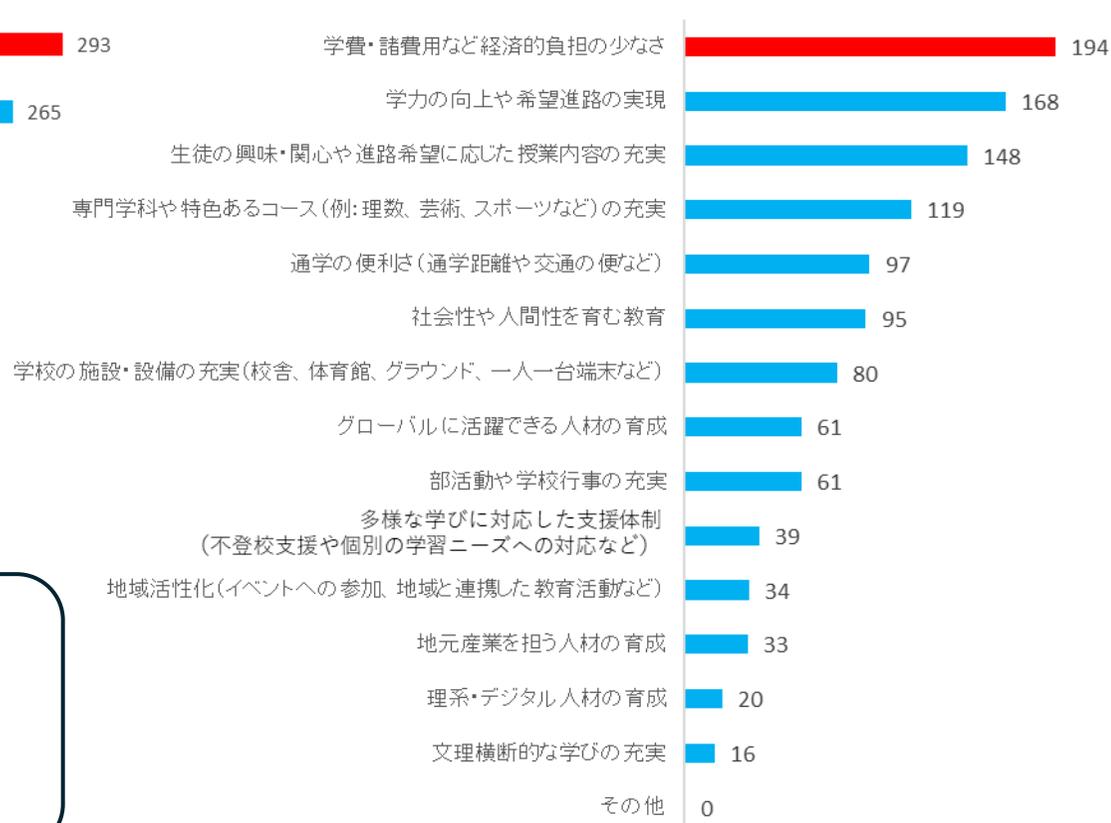
## ■ 実施概要

- ・ モニタ数 398人
- ・ 回答数 355人
- ・ 令和7年11月7日～令和7年12月4日

## 問1 公立である県立高校に対して どのようなイメージを持っていますか。 (3つまで選択可)



## 問2 県立高校にどのようなことを期待しますか。 (4つまで選択可)



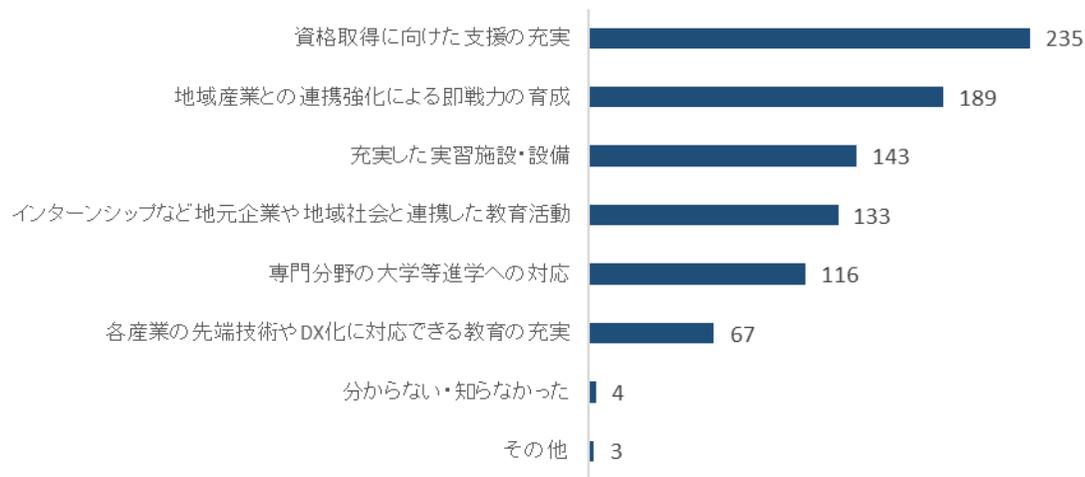
問1 (イメージ) と問2 (期待) で、いずれも最多選択は、「経済的な負担が少ないこと」となっている。

問3 「専門高校」(※)にどのような特徴があると、魅力的であると思いますか。

(3つまで選択可)

※ 専門高校とは

農業、工業、商業、水産、家庭、情報、福祉を専門に学ぶ学校です。職業高校ともいわれます。



その他の意見(3件)

- ・ 高卒で就職したい場合に有利。
- ・ 留学など国際的にやっていけるような育成の支援(経済的なものも含む)
- ・ 技術だけでなく、経営(ネット戦略や海外への販路拡大、人脈作りの場など)についても学べるコースがあると魅力的に思います。

## 問4 県立高校に期待することについて、これまでの設問以外に意見はありますか。ある場合は、その内容を具体的に入力してください。

### [回答内容（一部抜粋）]

- ・高校独自のカラーを発信して、魅力を大いに中学生にアピールしてほしい。
- ・県立の学費のよさや取組など分かるようにしてもらいたい。
- ・専門性を生かした学校が増えると、選択肢も増えるので、受験する時点で目標を絞りやすくなり、将来を見据えて学ぼうとする生徒が希望する学校を見つけやすくなるのではと思う。
- ・公立高校はそれぞれの専門学科や特色あるコースで魅力アップを狙うほうが良いと思う。その魅力的な学校やコースが自分達が住んでいる身近にあることが大事だと思う。
- ・生徒数減少に対応し、従来ある学校の統廃合を検討してはどうか。通学に不便性はでてくるかもしれないが、一部で在宅通信授業を取り入れる等の試みはあり得るのではないか。
- ・教科だけでなく生徒の興味関心に応じて、もっと外部から専門性の高い講師などを配置し、生徒の学ぶ意欲を高められる良いと思う。また、普通科以外のコースを多く設置し、授業も幅広く選択できるようにしてはどうか。
- ・県立高校に関しては、通いやすい生徒を優先してもらいたい。
- ・学区制をなくしてもらわないと行きたい高校に行けないから対処してほしい。
- ・県立高校を第1希望から第3希望まで選べると嬉しい。
- ・教員が授業に専念できるようにするためのシステム（保護者対応をクラス担任頼りにしない。教員の給与の充実）
- ・部活動をなくしたりして、教員の負担を減らしてほしい。
- ・勉強以外の部分でも、部活動や学校行事などの「仲間との関わり」から多くを学べるような学校であってほしい。
- ・地域の担い手として若い人の活躍への期待はますます高まっていくと思う。高校生のうちから、働くことや地域貢献の喜びが学べるような学校づくりが求められる。
- ・理系・文系といった枠を超えた「文理横断的な学び」も重要だと思う。例えば、理系でも社会課題を考える視点を持ち、文系でもデータやテクノロジーを理解できるような教育が進めば、将来どんな道に進んでも役立つはずである。
- ・地域に根ざしつつも、進学・就職どちらにも対応できる実践的な学びを充実させてほしいと感じる。特に、地域産業や地元企業と連携した体験型の授業や探究活動が広がれば、生徒の進路選択にも良い影響があると思います。
- ・ICTを活用した授業や、学習サポートの拡充により、学力や興味の違いにあわせた指導が受けられる環境が整うと、より学びやすくなると感じる。施設面の老朽化対策や空調・図書環境の改善など、学習環境の強化も引き続き期待する。
- ・生徒の進路希望についてさらに親身になって考えるようなカリキュラムと教員の教育を充実させてほしい。
- ・高校生らしさを求める「生活指導」の在り方に、生徒と先生のジェネレーションギャップを感じる。もっと生徒個々の個性を重視し、自由な学校環境の構築が必要であると感じる。